

.....
雑 報

URSI 第14回総会の開催 国際電波科学連合 (URSI) の第14回総会が今秋東京で開かれる。期日は9月10日から20日まで、会場は芝、高輪のプリンスホテルである。

現在 URSI の会長は Dr. R. L. Smith-Rose (英) で副会長は Monsieur B. Decaux (仏), Prof. A. Prokhorov (ソ), Prof. G. A. Woonton (加) および日本の古賀逸策教授を加えて4人である。加盟国は計28ヶ国を数える。URSI の内容は次の7分科に分れている。

第I分科 無線標準と測定 (Radio Standards and Measurements)

第II分科 対流圏と無線 (Radio and Troposphere)

第III分科 電離層と無線 (Ionospheric Radio)

第IV分科 地球大気内の無線雑音 (Radio Noise of Terrestrial Origin)

第V分科 電波天文学 (Radio Astronomy)

第VI分科 電波と回路 (Radio Waves and Circuits)

第VII分科 電波エレクトロニクス (Radio Electronics)

この内天文と特に関連のあるのは第I分科と第V分科の一部である。

参会者の総数はまだはっきりしないが、外国からはそ

の家族も含めて300~400名、国内では Delegates, Observers を合わせて約200名の見込みとなっている。

(飯島)

1月21日の大火球 京阪神地方でさる1月21日17時15分ごろ、非常に著しい大火球が見られたことが、兵庫県明石市天文科学館の河野健三氏から通信があった。観測された方は、時刻、出現点および消失点の方位、高度、明るさ等を同氏あて御通知いただきたいとのこと。

地殻運動シンポジウムの論文集の出版 昨年5月東独ライプツィヒでおこなわれた「最近の地殻運動に関するシンポジウム」については、本誌4月号72頁にちょっとふれたが、最近その論文集が出版された。議事および講演論文69がふくまれており、論文は測地、天文、海洋、地震、地質、地形など各方面より地殻運動について論じたものです。表題は1st International Symposium on Recent Crustal Movements (Leipzig, GDR, May 1st-26th, 1962); 21×29cm, 520頁, 62.5 DM (6,565円) で、詳細は測地学会誌第8巻, 第3号参照、なお東京本郷の福本書店では円貨支払で購入できます。見本を御覧になりたい方は、東大地震研究所内、宮村のところにあります。(宮村撰三)

=====
新刊紹介
 =====

星の和名伝説集——瀬戸内はりまの星

桑原昭二編

星の和名集については、野尻抱影、内田武志氏等の先達があって、多数の和名を紹介されたが、最近この桑原氏の一本を加えたことは、大きな収穫である。この収集は、著者が教鞭をとっておられる姫路高校の地学の生徒、天文気象班員等336名の協力を得て、昭和31年より37年まで、兵庫県と瀬戸内海沿岸の各地で採集したものである。聞き書は、漁師や農民の言葉をそのままに伝え、星にまつわる伝説を語るとともに、その背後にある人々の生活を示唆し、一種の詩情を盛った読み物としても興味深い。

たとえばカノーブスについて赤穂の一老人は「冬に四国の上を低うに通ってのお星さんがあります、あれは四国の芋を食うてのじゃいうて、いもくいぼしさんといいますわい……」といました。四国の芋島に腹ばいになって、芋を食うていると考えたのは傑作です」

同じカノーブスを淡路島の福良では、みっちゃん星というが、それは「みっちゃん星のみっちゃんというのは、やくざのことで、あまり長く出ずにすぐ入ってしまうので、ちょうどやくざが顔だけ出して、ピンをはねていくのに似ているのでこの名がある」と。

このような面白い名前が、どの頁にも出てくる。

この書物は、星の和名集としても珍重すべきものであるが、学校天文部の一つの活動方向を示すものとしても注目すべきものと思う。(六月社発行、B6判、218頁、450円) (下保 茂)

新刊天文関係書案内

- ◇ 明石天文科学館発行 学習用星図 4等星までの星図5葉と説明 312×218mm 30円
- ◇ 根本順吉編著、恒星社発行 日本の観測者、B6版 198頁、380円
- ◇ 藪内 清著、恒星社発行 一般天文学、B6版 280円
- ◇ オパーリン・フェセンコフ——金光不二夫訳、理論社発行、宇宙と生命、B5版、214頁、800円